

# ニュージーランドとの合同プログラミング講義 「Code Camp」

## 1. 目的

道立高等学校等の生徒を対象に、海外からオンラインで外国人講師による英語でのプログラミング講義を行い、SDGsに関するウェブサイトを作成するほか、同講義に参加する海外の学校の生徒との交流等を通して、生徒のICT活用能力、英語によるコミュニケーション能力の向上及び異文化に対する理解の促進を図る。

## 2. 主催

北海道教育委員会、エデュケーション・ニュージーランド及び北アジアCAPE

## 3. 実施時期

令和4年(2022年)6月25日(土)及び7月2日(土)

## 4. 実施方法

ウェブ会議システムによるオンライン実施 (Zoom Meetings)

## 5. 参加者

北海道釧路湖陵高等学校から5名(2年生3名、3年生2名)が参加

※ニュージーランド、インドネシア、マレーシア、フィリピン、韓国、タイ及びベトナムの学校の生徒も参加

## 6. 日程

	時間	内容
6月25日	10:30~10:45	オープニング(講師紹介、学校紹介)
	10:45~11:15	ウォーミングアップ(ニュージーランドに関するクイズ等)
	11:15~11:20	目標設定(SDGsに関するウェブサイトの作成)
	11:20~11:50	トピックの決定・リサーチ(北海道のエコツーリズム)
	11:50~11:55	Code Avengers(※)のウェブサイトにログイン ※ ニュージーランド教育省とデジタル教育ツールの共同開発等を行っている現地のエドテック企業
	11:55~12:30	レッスン1(コンテンツ、テキストの学習)
	12:30~13:30	昼食・休憩
	13:30~14:00	ウォーミングアップ(SDGsに関するクイズ等)
	14:00~14:40	レッスン2(フォーマット、スタイルシートの学習)
	14:40~15:20	レッスン3(画像及び動画の追加方法の学習)
	15:20~15:30	休憩
	15:30~16:15	レッスン4(ハイパーリンク及びアンカーの追加方法の学習)
	16:15~16:30	まとめ・クロージング(5名がそれぞれ作成したウェブサイトから、報告会用のウェブサイトを1つ選ぶ)

	時間	内容
7月2日	11:00~11:10	オープニング(主催者挨拶)
	11:10~12:15	プレゼンテーション(各チーム3分)
	12:15~12:25	表彰(Code Avengers Awardの発表)
	12:25~12:30	まとめ・クロージング

## 事業の様子

### ○ 6月25日（土）講義

開会式では、主催者を代表してエデュケーション・ニュージーランドから挨拶があり、講師の紹介や参加した8カ国9チームがそれぞれ自己紹介を行いました。

ニュージーランドに関するクイズなどで、英語での説明や雰囲気徐々に慣れ、各チームはそれぞれウェブサイトのテーマを決定するための話し合いを行い、



【作成作業】

釧路湖陵高校は、テーマを「阿寒のエコリズム」に決めました。

レッスンでは、各参加者がCode Avengersのウェブサイトログイン、プログラミングの基礎、文字入力、文字装飾、写真や動画の挿入方法を学習、1人1人がウェブサイトの作成作業に取り組みました。



【開会式】

### ○ 7月2日（土）報告会

本校の生徒たちは、学校祭の準備で忙しい時期でしたが、5人で協力して編集作業に取り組み、阿寒摩周国立公園やマリモ、アイヌコタンを紹介するウェブサイトを作成させ、役割を分担して5人全員でプレゼンテーションを行いました。



【報告会】

## 参加者の感想

「国内のSDGsへの取組については、これまでも知る機会があったが、海外ではどのような取組があるのか知らなかったのが、良い機会になった。」

「初めて学習する事柄（プログラミング）を母国語ではない言語で学ぶという点が特に英語のコミュニケーション能力の向上に繋がると思う。」

「多言語を学習して、その国の人たちと通じ合えることに改めて喜びと魅力を感じた。」

「他国の同年代の英語力を知ることができた。想像していた以上に話すスピードが速く、英語を話すことに対してとまどいがないように見えて圧倒された。」

「プログラミングは今回初挑戦で、基礎知識を全く持ち合わせていなかったのが、多少不安だったが、講師の方々みんなフレンドリーで英語も聞き取りやすく、最後までレッスンを終えることができた。」

「英語とICTを実践的なレベルで同時に学ぶことができるとても楽しかった。このような事業にまた参加してみたい。」

「将来は日本と海外の架け橋となる仕事に就きたいと考えており、このCode Campで得た日本の文化を英語で要約し、誰もが読みやすいウェブサイトを作成するという体験を将来につなげたいと思った。一生忘れられない事業となった。」

「今後も、プログラミングに限らず、海外の同年代の生徒と話せる機会があれば挑戦していきたいと思った。」